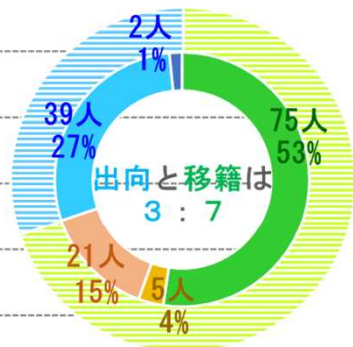
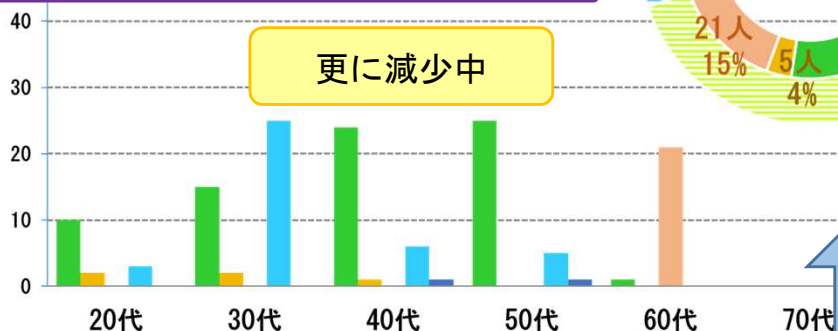


2022年度

成立者142名の内訳は  
29% 出向41名 移籍101名 71%

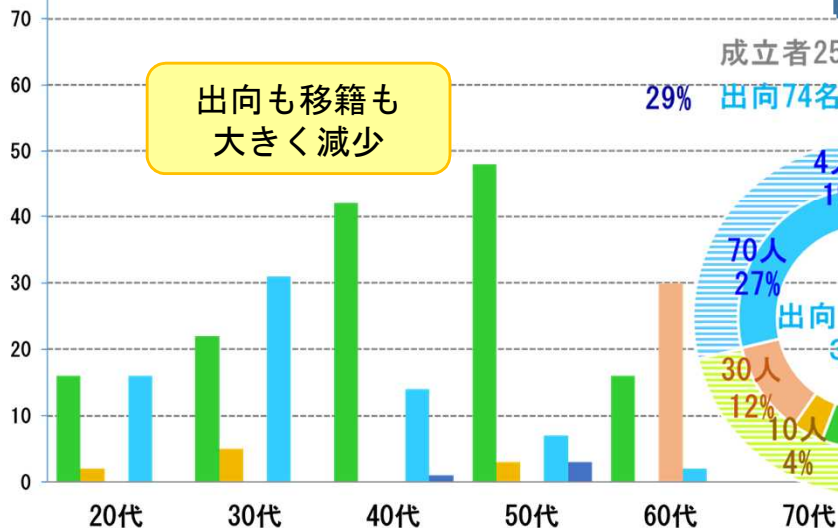
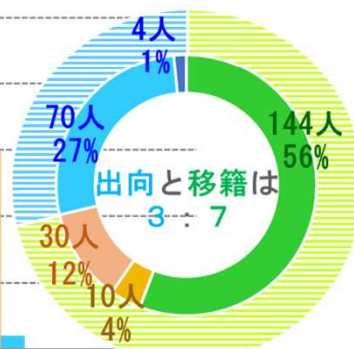


産業雇用安定センターの再就職支援状況に見る長崎の『在籍型出向』



2021年度

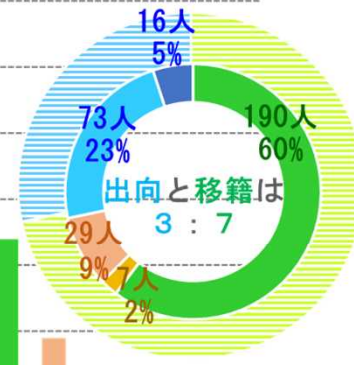
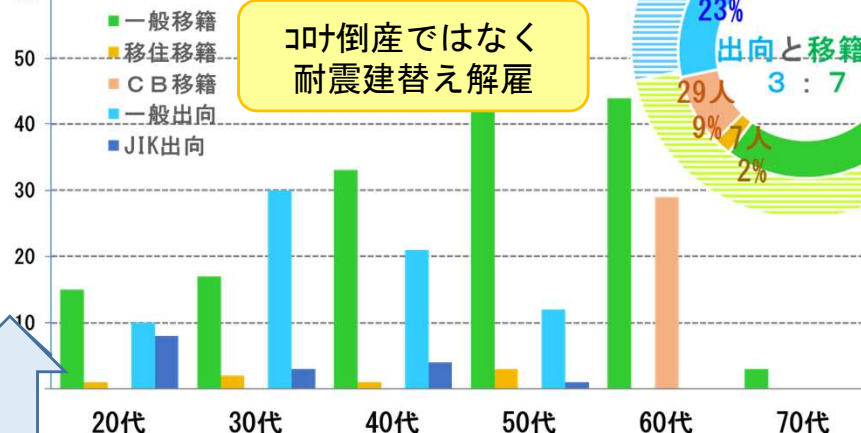
成立者258名の内訳は  
29% 出向74名 移籍184名 71%



2020年度

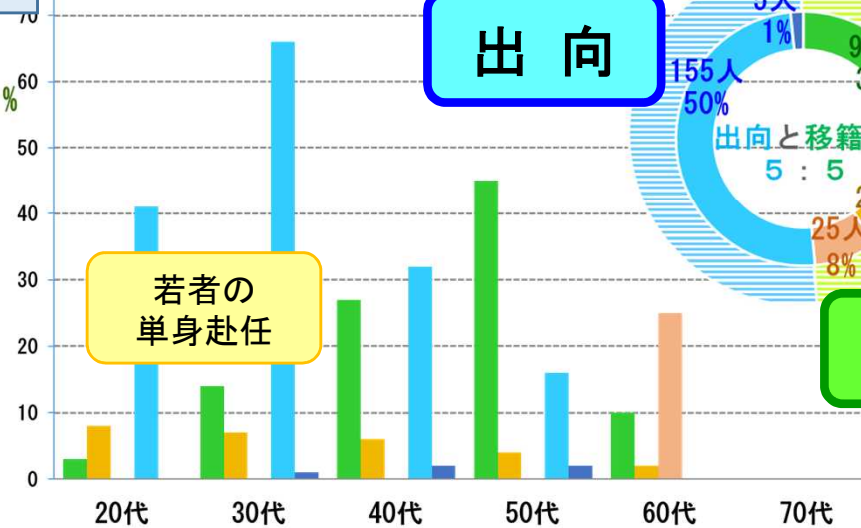
成立者315名の内訳は  
28% 出向89名 移籍226名 72%

移籍・出向の年代別・受入方法別成立実績



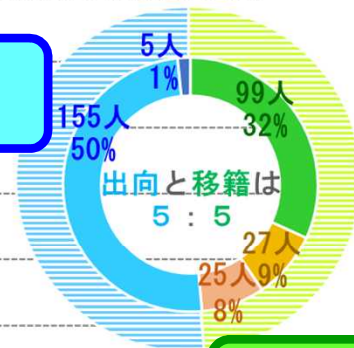
2019年度

成立者311名の内訳は  
51% 出向160名 移籍151名 49%



出向

移籍



## 2022年度

コロナが長期化する中でも、ワクチン接種・感染予防が進み、**経済を回す動きが世界的に**益々今更、出向に踏出す動きは無いが雇調金の終了・ゼロ融資の返済・コロナ以前の**慢性的人材不足**の中で長崎の経済は本当に回せるのか？ 人材不足の解決策は  
①**在籍型出向** ②**高齢者活用** ③**移住促進**

## 2020年度

コロナ禍でも**倒産・事業縮小は少なく**  
**耐震建替え**による一旦解雇が続いた  
重工業の協力企業は『造船・鉄鋼』から自動車部品・航空機部品・半導体製造へとこれまでの技術を活かし、**別の部品製造へと転じて行った**  
**出向どころか、増産増産**が続いた

## 2021年度

コロナ禍で、打撃を受けている**観光業界・食品製造業界**へ、在籍型出向を提案するがキャンペーン・終息で**いつ需要が戻るか分からない**ので、**出向に踏込めなかった**  
一時期より激減した『造船・鉄鋼』からの出向も**県内（半導体製造）**を紹介するが**出向条件の差**により結局**県外**へ流れる

## 2019年度

長崎は、元々『造船・鉄鋼』の町  
その閑散期には**県外の工場**へ**在籍型出向**を繰り返していた（似たような町は横浜・神戸）  
出向先は ①自動車・車輛の組立  
②重機の溶接・組立  
その大半は**20代30代**を中心とした若者  
**妻子を残しての単身赴任**が問題化